

2011/6/24  
第26号  
(23年6月号)

# しののめ



長野県総合教育センター通信

〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4  
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail [kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp](mailto:kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp)

## 企画開発部長兼教科教育部長挨拶

高野 正延

6月に入り、研修講座が本格的に始動しました。県下各地から、たくさんの先生方においていただき、当センターは活気を帯びています。

研修講座のメニューは、多彩です。講義はもとより、作品を作ったり実験をしたり、グループ討議や模擬授業もあります。ある時は、驚きや感嘆の声が上がり、拍手や笑いも聞かれます。それは、さながら学校の教室のようです。先生方が、児童生徒になって過ごす。そんな中から、「私たちが、こんなに楽しいのだから、この楽しさをぜひ子どもたちにも味わわせてあげたい。」という、学びの喜びを実感した受講者の声も聞かれました。

私自身、研修講座の様子を見て回りながら、その内容に引き込まれている自分に気付くことがあります。こんなことは初めて聞いた、これはこうやってやるのか、このことは今度使ってみようなど、ついつい受講者の意識になっています。

そんな時、自分も若いうちに、もっといろいろな種類の講座を受講しておけばよかったと思うのです。専門教科に限らず多方面の研修に参加していれば、自分の視野をいっそう広げることができたのにと反省しています。

もう2、3年で定年を迎える先生が、受講後のアンケートに「私たちでも、若い先生たちと一緒に研修できる講座があつてうれしいです。」と書いていました。センターの講座は、「学ぼう」という志のある方には、どなたにも開かれています。子どもたちのためだけでなく自分のためにも、教員にせつかく与えらえた研修のチャンスをもっと生かすべきではないかと思えます。



## センター講堂の風景(その2)

5月号に続き、センターに来所される多くの皆さんが利用される講堂とその周辺の風景を紹介します。

講堂内正面の書



「自琢」(自らをみがき修める)

上條信山(1907~1997)

亡くなる前年89歳作品(本センターのために)

東京教育大学教授。文化功労賞受賞。松本市神林の出身。数年県内で教員。上京し、書家として日展などで活躍。

講堂内左側壁面



「江戸国屏風」

縦162cm、横366cmの原寸大の複製画。右側にもう1枚あります。12枚のパネルにして貸し出しも行っています。

### 正面入口から見た講堂

ヤマボウシ(山法師)の可憐な白い花が満開です。〔6月15日撮影〕



講堂下の駐車場

この日は来所された方が多く、満車でした。グラウンドも開放しました。

講堂後方の松林

5月下旬からハルゼミが鳴き始め、賑やかです。



# 研修講座探訪

6月に行われた希望研修講座を紹介します。

【小学校3・4年算数基礎】 6月6日(月)実施 (24名受講)

<講座の内容と **受講者の感想** 紹介>

## ①研究協議

付箋を使ったワークショップで算数指導の悩みや工夫を出し合いました。



グループの代表者が発表

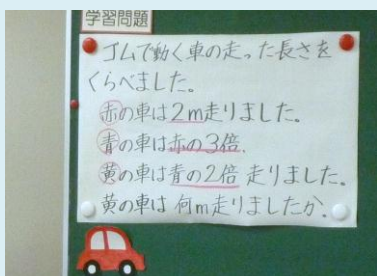


課題と工夫点を明確に

・困っていることや悩みを出し合い、「自分だけじゃないんだ」と感じて安心しました。

・多くの先生方が、学力差にどう対応すべきかを課題としていることがわかり、またその改善のために実践していることなども聞かせていただいたので、自分でも取り入れたいと思いました。

## ②講義・模擬授業



「何倍になるかな」

算数的活動や新しい教科書にそった指導の重点を学びました。

主事による模擬授業「何倍になるかな」から、学習課題の据え方や板書の仕方を学び、自分の授業と重ねながら意見交換しました。

・算数的活動を取り入れる意義や、取り入れ方や場面がよくわかった。  
・模擬授業は流れがイメージしやすく、とてもよくわかりました。子どもたちの気持ち（ドキドキ感）もよくわかりました。  
・「〇倍」とらえでつまずいている子が多いので、場面を取り上げてくださりありがたかった。

## ③授業づくり演習

3年「あまりのあるわり算」、4年「わり算の性質」の場面で教材研究を深めながら板書形式で授業づくりをしました。

・板書を基に授業の準備をしてみて、やはり教材研究が欠かせないと感じました。準備をして授業をすることで、子どもたちの「わかった！」が少しでも増えるように、日々取り組んでいきたいと思いました。



「教材研究がんばるぞ!」

## 【初めてのプレゼンテーションA】 6月7日(火)実施 (16名受講)

プレゼンテーションソフトを初めて利用する方を対象として講座を実施しました。プレゼンテーションの2つの側面として、「技術」と「資料」があります。技術には「アイコンタクト」「ジェスチャー」等があり、一方的なプレゼンテーションではなく、聞き手の様子を見ながら臨機応変に対応することが大切です。技術上達の秘訣は、他の人のプレゼンテーションを見ること、練習をすることです。そして何より、何回もプレゼンテーションを行うことで改善され、磨きがかかっていきます。2つめの資料を作成する上での注意点は、「何のために」「誰に対して」かを明確にし、図や表を用いて視覚に訴えることです。また、特殊効果を多用しすぎないこともポイントです。講座では、受講者がそれぞれ工夫しながら実際に資料を作成し、互いに発表し合うことで効果的なプレゼンテーション方法を学ぶことができました。「他の人のプレゼンテーションを見ることによって参考になった」「学校で実際に活用していきたい」とほぼ全員の受講者から前向きな感想をいただきました。受講者が「今後、校務・授業で活用できる」と自信を持って学校に戻って行きました。



発表風景

## 今からでも間に合う研修講座(7月・8月開講の講座)

分野	講座番号	講座名	対象	日程	募集人数
教科等	3-1-02-21	歴史学習の教材研究	中高特	8/2	2
	3-1-03-21	中学校数学「図形」	中特	7/22	14
	3-1-04-04	中学校理科入門(第2分野生物)	中特	7/12	10
	3-1-04-05	中学校理科入門(第1分野物理)	中特	7/26	7
	3-1-04-34	基礎から学ぶ楽しい化学実験	中高特	7/7	7
	3-1-05-04	英語の授業を英語で行うために	中高特	7/7~8	8
	3-1-05-06	英語ブラッシュアップ講座(基礎)	中高特	8/30	4
	3-1-09-02	小学校家庭基礎B	小特	8/9	4
	3-1-09-04	中学校家庭基礎B	中高特	8/11	9
	3-1-10-23	県産木材の有効利用と機械加工	小中高特	8/2~3	2
教育課題	3-2-01-01	人権教育と部落史	小中高特	8/25~26	3
情報・産業	3-3-01-01	学ぼう!著作権 初めての知的財産権	小中高特	7/21	8
	3-3-03-02	初めての表計算B	小中高特	8/23	3
	3-4-12-01	課題研究指導法	高(工)	7/15	8
	3-4-13-01	商品開発と地域振興基礎	高(商)	8/11~12	11
	3-4-20-21	専門教育の充実と改善	職業学科	8/19	15
生徒指導 特別支援	3-5-01-23	仲間づくりのためのピア・サポート	小中高特	8/3~4	5
	3-5-02-21	法律・判例を生かす生徒指導	小中高特	7/28	12
	3-5-02-22	生徒指導が機能する学校体制	小中高特	8/2	4
	3-6-01-03	発達障害のある子の指導小4~6年担任	小	8/4	5
	3-6-01-05	高等学校における特別支援教育	高	8/18	5
	3-6-02-22	ICFを活かした授業・生活づくり	小中特	8/1	9

6月22日現在

追加募集は10日前まで受け付けています。HPで確認して電子申請で申込みをお願いします。

# 指定研修を振り返って

教職教育部が5、6月に実施した研修講座から3講座を振り返ります

## ◇高等学校初任者研修「生徒指導研修Ⅰ」

6月7日(火)に高等学校初任者研修「生徒指導研修Ⅰ」が行われました。上田市立第三中学校教頭松島恒志先生の講義「学校における情報モラル教育」により、SNSの利用、ネットいじめ及び誹謗中傷の実態等の生徒の現状や情報モラル教育に必要な日常のモラル及び情報教育の2つの側面について、具体的な事例に基づいて学びました。

また、前教学指導課心の支援室長町田暁世講師の講義「学ばなくなった子どもたち？」では、「生徒指導は人権感覚である。」という観点から、生徒指導の基本的な考え方、子どもたちを取り巻く社会や家庭環境の変化について、数多くの具体例をとおして学びました。

さらに、「子どもが伸びるのは褒められてうれしいとき。にもかかわらず、教える側になると子どもをしかるばかりで褒めるところが見えていない」、「関わってあげることが、不登校には大切」、「学校は勉強しようとする志を教えるところである」など、御経験に基づく貴重なお話を伺うことができました。

情報モラル教育の必要性や、保護者への対応を含めた生徒指導の困難さは、多くの教師が日常強く感じているところです。初任者は、今回の研修講座で学んだ研修内容を、今後学校現場で生かしてほしいと思います。

### <受講者の感想から>

- ・教師にできること、①知る（現在の情報、方法等）、②知恵を磨く（加害者、被害者にならないよう教えていかなければならない）、③心を磨く（生徒と一緒に考えていく姿勢が大切）の3つを学びました。
- ・ネットでの中傷を指導する前提として、個々の命の重さを生徒に伝える重要性を確認できました。また、自分自身も、現在の情報、特にSNSについて知らなかったことが多く、新たな知識を得ることができました。
- ・生徒指導の際に、相手を肯定することや、未来を考えさせる「育ち」の場面を作ることが必要だと感じました。



町田 暁世 講師の講義

## ◇5年経験者研修（小・特）（中・高）「共通必修研修Ⅰ」

5月26日(木)に中学校・高等学校、6月3日(金)に小学校・特別支援学校の教諭を対象に、5年経験者研修「共通必修研修Ⅰ」が行われました。

午前中は小学館「総合教育技術」記者矢ノ浦勝之氏の講義「学力向上に向けて～秋田と福井の現状から～」により、義務教育に関する両県の学力向上対策の現状について学びました。少人数学習推進、授業力向上への取り組み、地域性・県民性等の様々な切り口から、具体的な事例を伺うことができました。また、両県が独自に作成した問題集や単元評価問題等の貴重な資料も提供され、他県の状況を知る良い機会となりました。

午後は、畿央大学の島恒生教授の講義「心の教育と学級経営の実際」から、心の教育を中心に据えた学級経営の在り方と、「道徳の時間」の意義や授業の実際について学びました。学級経営に関しては、「私事化社会」、「勇気のある子ども」、「開かれた個」等、学級や児童生徒を理解するために重要な視点について伺うことができました。また、「道徳の時間」に関しては、小学校6年生の読み物資料「手品師」を例に、どの場面でどのような発問をするのか実際に考えることを通して、その資料の持つ道徳的価値を分析することや発問を吟味することの重要

性を改めて確認することができました。

#### <受講者の感想から>

- ・授業力を磨きたいと思う一方で、学力に関する実態分析がおろそかであることを痛感した。目の前にいる生徒に合わせた教材研究、授業づくりをするべきだと改めて反省した。
- ・「口の重い子どもたちが発言できる学習＝誤答が生きる学習」は、自分自身の課題に重なる内容だった。途中でできていても「できていません」と言う生徒。そして、挙手している生徒ばかり指名する自分。そんな現状を打破する光明をいただいた気がする。
- ・高校では「道徳の時間」はないが、毎日生徒と関わる中で絶えず必要とされる視点で、大変参考になった。
- ・道徳の授業は、大切さは理解しているが、正直に言って苦手な避けがちであった。しかし、資料をきちんと読み取り、考えさせたいところやねらいを明確にして臨めばこんなにも楽しく広がるのだということを体験させていただいた。学校に戻って早速実践したい。



畿央大学 島 恒生教授の講義

#### ◇10年経験者研修（中・高）「共通必修研修Ⅱ」

6月14日(火)に中学校・高等学校の教諭を対象にした10年経験者研修の「共通必修研修Ⅱ」が行われました。午前中は、まず「不登校生を減らすために」と題して、仁科台中学校の工藤弘教諭に実践発表をしていただきました。心理学の知見に基づく対応や生徒の実態を見極めた「ルールを作ること」や「スモールステップによってほめること」の大切さなどを発表されました。そのあと、不登校を実際に体験された方の講話をお聞きしました。中学校や高校での不登校だったころの様子や、不登校を乗り越えて、定時制の高校や大学進学を経て就職するまでのことを、いくつかのエピソードを添えてお話をしてくれました。午後は、午前中の具体的な話を踏まえて、駒澤大学文学部心理学科の八巻秀教授の「不登校児童生徒への理解と支援のあり方」と題した講義をお聞きしました。臨床心理士でもある八巻先生のお話は、不登校の原因を追究するのではなく、不登校になってからの現状を分析し、三つのタイプのどれに該当するかを、まず仮説をたててそれに対応していくことが必要であると話されました。具体的には不登校になってからの時期、3日目、1週間、1ヶ月などにそれぞれの時期への対応策を具体的に話してくれました。「節度のあるおしつけがましき」、「逃げ場を作っておく」ことなど、いくつか大切なキーワードも伝えていただきました。

#### <受講者の感想から>

- ・今回の研修では、自分の今までの不登校生徒への対応を振り返り、今後の対応の在り方を考えるきっかけになりました。
- ・普段、学びたいと思ってもなかなかそのような機会のなかった不登校についてじっくり考える一日になりました。3名の講師による違った観点からの不登校改善のお話を聞くことができよかったです。
- ・私たちが、指導をする上でついつい、「悪者探し」や、「悪いのはあなた」のような考えに陥りがちであるが、そうではなくてプラス志向の大切さを教えていただきました。
- ・日々の生活の中で、様々な教育活動をする際に、困っている子に対してどのように接していったらよいのかを考える上で、大変参考になる研修でした。子どもたちが、やりたいという気持ちを見抜き、「やってみよう」と思った瞬間を逃さずにつかんでいきたいと思いました。



駒澤大学 八巻 秀教授の講義

# 発達障害について理解し、適切な支援につなげましょう！

(生徒指導・特別支援教育部)

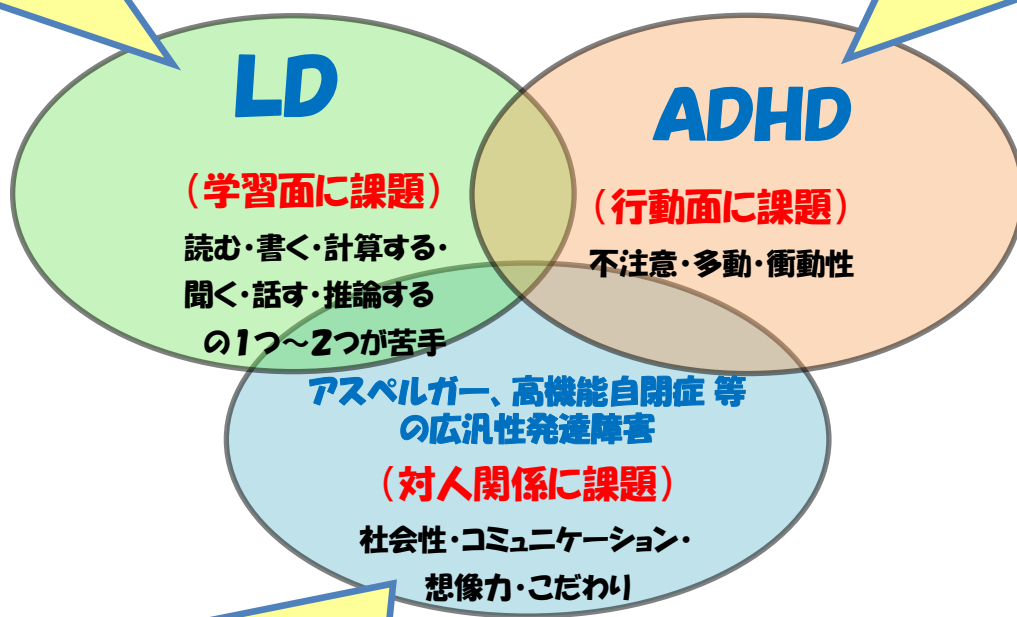
発達障害は、先天的な脳の機能障害です。「本人の努力不足」や「家庭のしつけ」が原因ではありません。学習や生活上の困難点を改善・克服するために、障害特性を理解し、適切な支援を行うことが必要です。

## 【支援の例 (LD)】

- 発達検査等で認知特性を把握し、本人に合った学習方法を見つけましょう。  
(例) 漢字を何回書いても覚えられない  
図形問題が全くわからない
- 本人が「できるかも!」「やってみよう!」と前向きになれるように支えていきましょう。
- 得意な部分は伸ばし、苦手な部分は、伸びてきているところをほめ、認めていくようにしましょう。

## 【支援の例 (ADHD)】

- 注意を向けてから指示するようにしましょう。
- 短時間の学習を組み合わせさせてみましょう。
- 持ち物などはチェックリストを準備
- おおらかに接し、失敗を責めるより、今後何をすべきかに目を向けられるように支援しましょう。
- 多動であることは、活動的でバイタリティがある、反応が素早くよく気がつく等プラス面にとらえてその子の良さを生かすようにしましょう。



## 【支援の例 (広汎性発達障害)】

- 先の見通しがもてるように学習の流れや活動のゴールを明確にしましょう。(スケジュール表、手順表)
- 相手との距離間や自由、曖昧、抽象的といった苦手な部分を、生活や経験の中で学べるようにしましょう。
- 気持ちを言語化する支援を心がけ、本人が言葉で表現したり、考えを整理したりできるようにしましょう。
- こだわりについては、ひとつのことに長時間集中でき、追究する力があるというプラス面にとらえてその子の良さを生かすようにしましょう。

## 「パーソナルサポート」と「ユニバーサルサポート」

### ① パーソナルサポートとは【個への支援】

- この子の特性や状態に応じた個別の支援

### ② ユニバーサルサポートとは【全体への支援】

- 特別な支援が必要な子にとって「ないと困る支援」で、全ての子にとって「あると便利な支援」

★通常学級など大きな集団の中で指導する場合は、パーソナルサポートには人的・時間的な限界がある

「ユニバーサルサポート」の必要性

+

「授業改善」の必要性

→

「授業のユニバーサルデザイン」

(どの子にとっても、わかりやすい授業)

# 「授業のユニバーサルデザイン」の例

1	<p><b>学習環境の整備（集中して取り組める環境づくり）</b></p> <p>正面に余計な掲示物がない/掲示物やカーテンがヒラヒラしてない/前時の黒板の消し残しがない/机や備品が整然と並んでいる/ゴミが落ちていない/机上に必要な物が前記余計なものがない</p>
2	<p><b>見通しを持たせる</b></p> <p>「学習の流れ」や「活動のゴール」を明確にする /授業の流れの「パターン化」</p>
3	<p><b>視覚支援</b> 言葉だけでなく、写真・絵・文字・図・表などを使ってイメージしやすいように示す</p>
4	<p><b>大事なことは注意を向けてから</b> 意識を集中できる状況を整えてから伝える</p>
5	<p><b>大事なことは板書等で明示する</b></p> <p>ページ・学習課題・手順等は板書し、聞き逃しや記憶が曖昧な場合でもわかるよう明示しておく</p>
6	<p><b>「すきま時間」への対応</b></p> <p>問題が早くできたら別のプリントに取り組む等、次にやるべきことを準備し指示しておく 授業中のフリーな時間、休み時間、給食準備中、帰りの会の前の時間等の過ごし方に要注意</p>
7	<p><b>3つの学習スタイルを組み合わせる</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>みる</b></p> <p>写真・絵・文字・図・表</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>きく</b></p> <p>耳で聞く 自分で唱える</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>やってみる</b></p> <p>書いて覚える 体験して覚える</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>・子どもの学びやすさ（認知特性）を組み合わせた学習方法を用いて、どの子にも分かりやすく</p> <p>(例) 見て～聞いて～読んで～書いて・・・ 覚える</p> </div>
8	<p><b>自己評価と他者評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆本人が実感できる自己評価（「よし!」「やった!」と実感できる/成果が具体的に見える） (例) 授業中に取り組んだプリントはファイルに綴じて、単元の終わりや学期末に振り返る</li> <li>◆確かな他者評価（先生や友だちから） 即時評価/良さを取り上げ認め合う場面を設定/具体的かつ明確に伝わる方法で</li> </ul>
9	<p><b>「集団を育てる」「集団で育てる」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆集団を育てる（仲間意識と対人関係スキル） 教師が自らモデルを示す/子ども同士の学び合い支え合い/対人関係ゲーム・エンカウンター等</li> <li>◆集団の中で育てる：集団の力を生かす（学び合い、支え合い）/配慮はするか特別扱いほしくない</li> </ul>
10	<p><b>授業がもっとよくなる3観点（長野県教育委員会事務局 教学指導課）</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらい（つける力）を明確にしましょう。</li> <li>・授業の流れに<b>めりはり</b>をつけましょう。</li> <li>・ねらいの達成を<b>見とどけ</b>ましょう。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;"> <p>授業をもっとよくなるには、<b>学習環境</b>を整えることも大切です。</p> </div> </div>